フード連合　第１０回定期大会　渡邉会長挨拶（要旨）

第１０回定期大会は、向こう２年間の運動方針を決定していく大会となります。ご参加いただきました皆さまの真摯な討論によって本定期大会が意義あるものとなるよう心から期待しております。

さて、東日本大震災に被災されました多くの皆さまに対し、心からのお悔やみとお見舞いを申し上げます。フード連合の加盟組合においても甚大な被害を受けましたが、皆さまのご理解のもと、カンパ活動へのご協力、連合ボランティア活動へのご参加など、暖かいご支援を頂き、心から御礼申し上げる次第です。今後に向け、人と人との絆を大切にしながら、産別として政府や政党に対する政策要請等、必要な取り組みを進めてまいりたいと考えます。

９月２日に野田新内閣が発足し、民主党政権の誕生から２年が経過しましたが、この間の一連のドタバタ劇を通じて、国民の民主党に期待する心情は大きくしぼんでしまったと言わざるをえません。私見ではありますが、政権のたらいまわしではなく、一定の時期に民意を問う事があってしかるべきと思います。さらに言えば、国民に政治不信をもたらしているポピュリズムを排し、政治理念や国家の基本政策の違いをベースとした本来的な意味での政界再編へと歩みを進めることが政治の王道ではなかろうかと考えます。

さて、この間の取り組みをふまえて、今後の私たちの運動の課題について提起したいと思います。

まず 2011 春季生活闘争は、昨年との比較では大差のない結果ではありましたが、私は今春闘の結果について云々すること以上に、今後の春闘はどこへ向かっていくのかよく考え、来春闘に向けて、今こそ真剣に対経営との交渉における私たちの「弱さ」について考えなくてはなりません。

昨年度は加盟組合に対して組織活動実態のヒアリング調査を行い、調査結果から今回浮き彫りになった諸課題への対策を講じ、フード連合として今後の組織強化活動に活かしていきたいと考えます。

これまでの組織運営や活動実態を振り返り、次の時代へのステップとするため「あり方検討委員会」を設置し、その議論の中から現行の執行体制や各種委員会の構成などについて一定の見直しを行なうことを本大会に提案しています。さらに引き続いての十分な論議が必要と考えており、皆さまからも建設的なご意見をお寄せ頂きたいと思います。

執行部としては向こう２年間の運動方針の最重点課題として「組織の拡大」を掲げています。食品関連産業で働く労働者の社会的地位とその労働条件は、一部の大手企業を除けば、未だに相対的に低位にあり、ひとえに組織率の低さによる社会的な影響力や波及力の乏しさであることにほかなりません。また、私たちの運動は、スローガンを掲げる、あるいは目標を示すことで満足し、その実現のためのプロセスや進捗管理については、おろそかにしてきたきらいがあったのではないでしょうか。今日の組織の状況に対する危機感を共有化し、是非とも自ら行動を起こしていただきたいと考えます。

この他にも、私たち食品関連産業に大きな影響を及ぼすＴＰＰへの対処や、原発をめぐるエネルギー政策のあり方などの問題に対して、フード連合としてさらに議論を深めていく必要があります。原発災害に端を発する食品の安全性に対する関心の高まりや食料の自給率の現状など、幅広く見据えていかなければなりません。

最後になりますが、私ごとではありますが、本大会をもちまして退任することとなりました。2002 年１１月１９日のフード連合結成大会におきまして会長にご選任いただいてから５期９年にわたり、微力ながら務めてまいりました。新たな体制のもとで、フード連合の運動がさらに発展することができれば、これにすぐる喜びはございません。

本大会が皆さまの討論を通じて、実りあるものとなることをご期待申し上げ、執行部を代表しての挨拶とさせていただきます。